# 環境大臣賞グランプリ

企業・自治体部門
熊本県

## 株式会社球磨村森電力

## 他地域への波及を始めた球磨村における地域課題解決型電力事業

蓄電池付太陽光発電設備を中心とした電力事業を通じて、「球磨村内の脱炭素化と災害時のレジリエンス強化による令和2年豪雨災害からの復興への貢献」、「事業収益の地域還元を通じた村内資金循環量の増加による人口減少時代における地域経済縮小への対応」等に取り組んでいます。脱炭素化とともに地域課題を解決するこの取り組みは、持続可能な村の発展を目指す「創造的復興」へと繋がるとともに、他地域にも波及しています。

副賞　表彰盾

### 審査コメント

再生可能エネルギーを導入して蓄電池で安定して利用していく、そんなことが本当にできるんですかと多くの人たちが考えていることを、実際にやって他の地域にも波及させており、グランプリに相応しい取組であると思いました。地域に裨益する再生可能エネルギーをいかに拡大していくか、そのお手本を示していただいたと思います。

審査委員長
江守 正多

### 受賞者コメント

球磨村新電力の収益は電力事業で上げていますが、我々が本当に出していくアウトプット、バリューは、電力の供給ではなく地域の課題解決の貢献であり、そのコンセプトに基づいて各地の困っている地域をサポートしています。今回様々な団体の取組を拝見して、チャレンジに対するピュアさや熱量を感じましたので、それを持ち帰って自分の活動に活かしていきたいです。

プレゼン動画はコチラ

# 環境大臣賞 金賞〈市民部門〉

市民部門
福岡県

## グリーンコープ生活協同組合連合会

## 2027 カーボンニュートラル ～みどりの地球をみどりのままで～

「２０２７カーボンニュートラル(scope1・2の$CO_2$排出量の12,602トンをゼロに)」に取り組んでいます。これまで環境を守るために取り組んできた、フードマイレージ・4R運動・せっけん運動・脱プラスチックの推進などの運動に加えて、更に脱炭素を加速させるために、電灯のLED化・全車両のEV化・自家消費型の再エネ発電施設の設置、ドライアイス使用量の削減や植林などによる$CO_2$吸収活動を進めています。

副賞　表彰盾

### 審査コメント

さすがグリーンコープさんですよねというのが審査員みんなの声でした。無理なくできる取組を長く続けられていて、更に脱炭素に向けて取組を加速させているところが素晴らしいです。この活動が全国にもっと広がっていけば脱炭素社会に変わるのではないかと思います。市民から国を変えていく取組の一つではないかと思います。

審査委員
岩谷 忠幸

### 受賞者コメント

私たちの出発点は家族の健康、子どもたちの健康、そして未来を守りたいという私たち母親の思いからスタートしています。地味で小さな取組かもしれませんが、それが認められて集大成として2027カーボンニュートラルというグリーンコープの運動につながっています。これからも活動を楽しく頑張っていきます。

プレゼン動画はコチラ

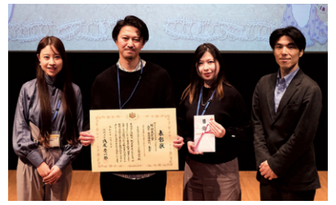
# 環境大臣賞 金賞〈企業・自治体部門〉

企業・自治体部門
佐賀県

## SAGA COLLECTIVE 協同組合

## 佐賀の異業種 11 社が連携して挑むカーボンニュートラル

11社で2021年度より$CO_2$排出量の把握・削減・相殺を実行。2023年度までで300t以上、約20%の$CO_2$を削減し、600t以上のカーボンオフセットを実行しました。佐賀や福岡の森林由来のJクレジット、佐賀県唐津市の藻場再生プロジェクトによるJブルークレジットを選び、クレジットの地産地消モデルを確立。ゼロカーボン商品の販売や脱炭素ノウハウの提供などにより消費者や事業者に脱炭素を訴求しています。



副賞　表彰盾

### 審査コメント

数百年という歴史ある伝統産業では、自然環境につながりを持って仕事をされており、すでに気候変動の影響を何等か受けていると思います。「被害」で終わらせるのではなく、異業種ネットワークで、実際に$CO_2$の削減の実践で取組を深めているところが素晴らしいです。今後も地域の中で輪を広げていくことに期待しています。

審査委員
桃井 貴子

### 受賞者コメント

循環と継承という事業の全体像が自然から始まっていることに気付いてこのような仕事を始めました。地域の文化の豊かさに触れ、これを残したいと思う人が、実際に行動して地域の産業を守ってきた方々と共同しながら次世代につなげていく、私たちがやれることをやった上で次の世代にバトンを渡していくことが大事だと思っています。

プレゼン動画はコチラ

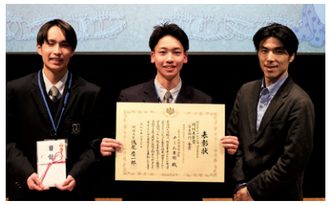
## 環境大臣賞 金賞〈学生部門〉

学生部門 / 山梨県

### 山梨県立北杜高等学校 チーム果樹

### 果樹園で脱炭素! 私たちの4パーミルイニシアチブ

約50アールの実習果樹園で土壌中の炭素を増やす活動「4パーミルイニシアチブ」をおこなっており、果樹栽培を学習しながら毎年約500kgの炭素を削減しています。土壌中の炭素が増えると温暖化防止だけでなく農作物の生育にも良いので一石二鳥です。本活動は山梨県から認証を受けており、育てた果物に認証マークを付けて売ることで消費者のエシカル消費を促すとともに、脱炭素型の農業の普及に貢献します。



副賞 表彰盾

**審査コメント**

地域の中で輪を作る取組の実践を評価しました。炭素の土壌への固定を一つの価値として果物の価格にのせ年間100万円を売り上げているのが素晴らしいです。買った人が脱炭素について知るきっかけになっているのではないかと思っています。これからも色々な脱炭素にチャレンジして地域の中で広げていただきたいです。

審査委員
桃井 貴子

**受賞者コメント**

私たちの4パーミルイニシアチブは、私たちだけがやっていても地球全体にとってはちっぽけなものになってしまいます。いろんな人が4パーミルイニシアチブに参加することによって、その結果、地球がよくなることを期待していますので、このような場に立って発表ができたことはありがたいことだと思います。

プレゼン動画はコチラ

## 環境大臣賞 金賞〈ジュニア・キッズ部門〉

ジュニア・キッズ部門 / 東京都

### 学校法人国本学園 国本小学校

### 「KUNIMOTO Re-Project」 ～ゴミから笑顔を～

身近な生活用品の資源循環を通して、$CO_2$排出量削減、さらにサーキュラーエコノミーサイクルの一端を担う取組を実施した。

①SDGs学習から気候変動の現状や企業の脱炭素化についての学習

②プロジェクトの立案・実行

・企業6社の協力を得て、不要な子ども服、古本、プラスチック製の文房具、テープの巻心、ピースボトル、Ziploc製品を本校を拠点に回収し、企業に返す取組

③企業との追加プロジェクト実施

副賞 表彰盾

**審査コメント**

子どもたちの主体的な思いで活動が生まれているということが取組の広がりにつながっています。今年の活動は使わなくなった物にも力を見出して、その次を作っていこうという取組に発展されました。協力された企業、地域、学校の関係者、縁日に来てくれた子どもたち、みんなが次のチャレンジをしてみたいとワクワクするような活動が評価されました。

審査副委員長
尾山 優子

**受賞者コメント**

子どもたちのアイデアは本当に無限大で、どうしたら形にできるかを考えて大人たちに提案をしてきます。そんな子どもたちの姿を見ていると今後の環境問題はいいところに進むでしょう。これからの社会を担う子どもたちをみんなでサポートしていくことで、その一連の行動が大人たちの行動変容にもつながると思います。

プレゼン動画はコチラ



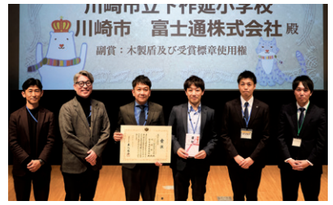
## 文部科学大臣賞〈社会活動分野〉

企業・自治体部門 / 神奈川県

### 川崎市立下作延小学校 川崎市 富士通株式会社

### デザインとテクノロジーで脱炭素への行動変容を生み出す環境授業

川崎市の脱炭素実現に向けた「デザイン思考」と「デジタルテクノロジー」を活用した小学生向け環境出前授業。環境問題を共感的に捉え自分ごと化、ありたい未来を構想し、自分たちができる脱炭素アクションを宣言し実践。構想した未来やアクション実績を「仮想空間」等で可視化・体験することで、従来授業では難しかった環境へ及ぼす効果を実感。脱炭素に向けた子どもたちの行動変容を引き出す授業を官民共創で提供した。




副賞 表彰盾

**審査コメント**

仮想空間で実感できる部分が大きいところ、具体的な数値で脱炭素の計算をしていたり、効果をよく見ているところが素晴らしいと感じています。いい未来を想像して、それを脱炭素のアクションに起こすバックキャスティング的なやり方は非常に重要だと思います。この素晴らしい活動が全国の教育の中に取り入れられたらいいなと思います。

審査委員
岩谷 忠幸

**受賞者コメント**

子どもたちが環境に対して何かをしようと考えて、どうしてもなかなか結果がすぐに出ないときに富士通さんからアイデアをいただき、子どもたちは自分がやったことで街が変わるという喜びを実感しながら学習を進めていきました。下作延小学校の総合的な学習では、私たちが動けば何かが変わるということをテーマに学習を進めていきます。

プレゼン動画はコチラ

## 文部科学大臣賞〈学校活動分野〉

ジュニア・キッズ部門 / 秋田県

### 秋田県大仙市立 大曲南中学校

### 「ストーリー」と「ネットワーク」で紡ぐ脱炭素に向けたESD

SDGsの達成を目指し、「食」、「住」、「エネルギー」、「気候変動」、「国際理解」「SDGs商品開発」の学びを教育課程に位置付けてESDを実践している。重視しているのは「ストーリー」と「ネットワーク」。ESDストーリーマップを作成し、探究的な学びのストーリーを、様々な機関や人と連携し体験的に進めることで、SDGsの達成に向けた脱炭素の重要性を理解させ、学んだことを基に行動できる生徒を育てている。

副賞 表彰盾

**審査コメント**

年間を通じてストーリーがつながって学んでいく活動が評価されました。コミュニケーションを大切にされているところから、また違うストーリーが新たに生まれていくのではないかと思います。気候変動で離れた国でも何か起きているのかを学びながら、自分たちに何ができるだろうとアイデアを出す学びもとても素晴らしいです。

審査副委員長
尾山 優子

**受賞者コメント**

大曲南中学校ではアルミ缶・古紙回収や服の力プロジェクトなど、脱炭素につながる取組を地域の方々とともに行ってきました。このような活動で人と人とのつながりが何よりも大切であると実感しました。協力していただいた地域の方々に感謝し、先輩方から引き継いだ活動を未来へつないでいきたいと考えています。

プレゼン動画はコチラ

一般財団法人 セブン-イレブン記念財団

## セブン-イレブン記念財団 最優秀地域活性化賞

企業・自治体部門 茨城県

## 長方屋

### いば食 de 脱炭素シリカプロジェクト

稲作が盛んな関東平野ど真ん中から排出される「もみ殻」は今の時代利活用されずに広域焼却炉へ。保管管理や最終処分費も嵩んでいたJAや生産法人から「持って行って消してくれ」のお願いされた。そこで、「脱炭素で良いものが作れないか?」と考えた。そして、「消してやっぺ！茨城商品にしてやっぺ」と、60tを購入した。試行錯誤でたどりついたのは脱炭素製法でつくる「もみ殻シリカ」。サプリメントにして大ヒットしました。

副賞 広報誌「みどりの風」紙面への記事掲載

**審査コメント**

私は富士山の麓に住んでおりますが、雪が少なくなり日々、気候変動の心配をしています。それにつけて長方屋さんの取組には本当に驚きました。もみ殻を燃焼させるとCO2が排出され、非常に大きな費用もかかる。そこをなんと商品化してしまうという素晴らしい取組です。地域循環の取組が広がり、富士山の素晴らしい雪景色が維持されることを期待いたします。

一般財団法人セブン-イレブン記念財団　理事長　太田 敏夫

**受賞者コメント**

私たちも何とかシリカを商品化をすることができました。これからも一つ皆さまのご協力をお願いいたします。ありがとうございました。

プレゼン動画はコチラ

unicharm ユニ・チャーム

## ユニ・チャーム 最優秀Love Your Possibilities賞

学生部門 愛媛県

## 愛媛県立大洲農業高等学校 生産科学科果樹プロジェクトチーム

### バショウによる CO2 削減 ～脱炭素社会の実現～

脱プラを目指し、果実袋のセロハンを芭蕉和紙に代替し、使用後に土壌中に還元することで炭素増加を図れる。バショウには、無機成分が豊富に含まれているため、企業と連携した有機肥料の開発により、廃棄物の焼却・原燃料利用に伴うCO2排出量の削減につながった。バショウは成長が早く、1本あたり20kgの二酸化炭素を吸収し、固定する力があるため、それを利用することでゼロエミッションシステムの構築が図れた。

副賞 ユニ・チャームHP内での活動紹介

**審査コメント**

皆さんの取り組みは、地域にゆかりある植物「バショウ」に秘められた可能性に着目し、収穫量拡大と地球温暖化抑制を同時実現する優れたものです。まさに当社のコーポレート・ブランド・エッセンス「Love Your Possibilities」に込めた想いと親和性が高いと思います。ぜひ、今後も活動を継続され、さらなる改善を進められることを期待します。

ユニ・チャーム株式会社　上席執行役員　ESG本部長　上田 健次

**受賞者コメント**

この度は栄誉ある賞をいただき、ありがとうございます。私たちはバショウを活かした研究を進めてきました。これからも研究を進めていきたいと思います。

プレゼン動画はコチラ



ニトリ NITORI

## ニトリ 最優秀夢・未来賞

学生部門 熊本県

## 熊本県立南稜高等学校 総合農業科環境コース林業専攻

### 「がんばっとるばい!人吉球磨」森林資源活用で脱炭素×災害復興

1.『令和2年7月豪雨』からの復興を目指し、被災地における復興支援活動を継続!
2.間伐材で『復興祈願フォトスタンド』を製作し、被災者に木材の温もりをお届けすると共に、森林資源活用!
3.生じる端材を炭化し、森づくり・海づくりに活用することで、私たちの木育活動における“ゼロ・エミッション”を実現!
4.『流域治水スタディーツアー』で、豪雨災害からの教訓を伝え、防災・減災に繋げる森林環境教育を実践!

副賞 HPでの紹介及び、記念品の贈呈

**審査コメント**

木材の良さを活かした取組が脱炭素に加えて復興支援にまでつながる点を評価しました。木のぬくもりが被災者を元気にするところに着目し、木育や木製スタンドの作成、それを通じた心の復興支援、端材まで炭にしてCO2の固定に寄与する一石三鳥の取組に感動しました。将来の森林を守る職業の関心を広い世代に伝えられている点も素晴らしいです。

株式会社ニトリホールディングス　SDGs推進室　室長　奥田 理

**受賞者コメント**

私たちの活動は先輩たちの代から受け継いできて、林業専攻ができる木材を活用した災害復興として行ってきました。人吉球磨地域は令和2年に多くの支援をいただいたので、今度は私たちがそれをお返しできるように全国で木育活動を展開し、心の復興に貢献していきたいと思っています。

プレゼン動画はコチラ

一般社団法人 日本WPA Japan Waterless Printing Corporate Association

## 日本WPA 最優秀未来へのはばたき賞

企業・自治体部門 埼玉県

## 株式会社 ジェイ・シー・ティー

### 脱炭素×木製パレットのサーキュラーデザイン化

木製パレットのサーキュラーデザイン化により、適切に管理・保管・修繕し、最大限リユースすることで、現在ワンウェイで使用されている木製パレットを継続的に再利用する仕組みへと改変することでCO2の排出を削減する。また、使用できなくなったパレットを木炭製品や木工製品としてアップサイクルし、炭素固定に繋げる。更に、木炭を農業や造園などにより土中利用することで、カーボンオフセットに寄与することも可能にする。

副賞 HPでの紹介及び、特製盾の贈呈

**審査コメント**

パレットは壊れたらすぐ捨てる、または壊して薪にするという発想だったのですが、修復し、最後は炭にまでして、ライフサイクルアセスメントという面でうまくサーキュラーエコノミーを実現していることに感動しました。森を育てて森を守る、こういう活動が脱炭素につながるところも含め、一緒に活動していきたいです。

一般社団法人日本WPA　会長　奥 継雄

**受賞者コメント**

山林の価値をいかに生んでいくかに主眼を置き、木製パレットやそこから生み出される木工製品や木炭製品の利用を進めていくことによって潜在価値を高めていこうとしています。持続可能という点においてもサーキュラーエコノミーあるいは製品そのもののサーキュラーデザイン化が進むことを望み、事業としてやっていきたいと考えています。

プレゼン動画はコチラ

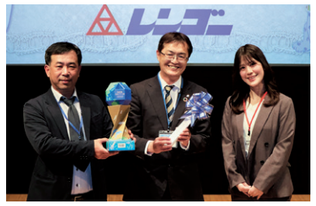
レンゴー
## 最優秀脱炭素未来づくり賞

市民部門
長崎県

### 壱岐市磯焼け対策協議会

## 長崎県実りの島壱岐イスズミハンターいきいきプロジェクト

令和2年度から、イスズミ駆除を主とした藻場の保全や機能の回復に取り組んでいる。イスズミハンター事業では、刺網および矛突きによるイスズミ駆除を実施。4年間で19,393尾のイスズミ駆除に成功。令和5年、取組対象範囲には約270haの広大な藻場が繁茂(回復)しており、ジャパンブルーエコノミー技術研究組合(JBE)から、Jブルークレジット®974.6t-$CO_2$の認証を受けた。



副賞 段ボール製トロフィーの贈呈

**審査コメント**

こちらのプロジェクトは脱炭素社会の実現だけでなく、生物多様性の保全や資源循環など様々な環境課題に貢献する取組だと思います。また、学生たちの環境教育にも活用されているということで、正に次世代の環境意識を作っていく、未来につながる取組だと思いました。

レンゴー株式会社　環境経営推進部　主任　多田 有沙

**受賞者コメント**

これまで本協議会が取り組んできた磯焼け対策に係る藻場の復活のための活動を評価いただき、一同大変嬉しく思っております。壱岐市にはまだまだ広大な漁場があります。全ての漁場の藻場が復活し、多くのブルーカーボンを生み出すとともに未来の子どもたちに残せるような壱岐市を作っていきたいと思います。

プレゼン動画はコチラ

一般社団法人 炭素会計アドバイザー協会
## 炭素会計アドバイザー協会賞

学生部門
北海道

### 北海道大野農業高等学校 果樹専攻班

## 持続可能な果樹生産を目指して ～私たちにできる脱炭素～

剪定枝によるバイオ炭の製造試験に取り組みました。バイオ炭に含まれる炭素は難分解性であり、土壌中に炭素が貯留することにより二酸化炭素を削減し、気候変動対策に貢献できます。バイオ炭は国際的にも認められた吸収源活動です。現在はバイオ炭の作物の生育試験を行っています。また、地域企業と連携した商品開発や、情報発信・啓発活動、各種大会への参加、国際交流等により、道南農業の活性化と地域振興を目指しています。

副賞 木製の記念楯の贈呈

**審査コメント**

気候変動への課題に対して、経済との両立と持続可能性を追求する取組みを高く評価しました。北海道と食文化、お酒が大好きな私には、この取組みが全てに合致していると感じました。経済の重要性を理解し、高校生でありながらJクレジットを活用する姿勢は我々の刺激になりました。ぜひ、世界を牽引して地球を救う活動を続けてください。

一般社団法人炭素会計アドバイザー協会　副理事長　山田 英司

**受賞者コメント**

私たちの研究は結構前からやってきたものですが、このような場所で賞をいただきすごく嬉しいです。この研究をこれからも自分が受け継いで頑張っていきたいです。ありがとうございます。

プレゼン動画はコチラ



公益財団法人 SOMPO環境財団
## SOMPO環境財団 最優秀わくわく未来賞

ジュニア・キッズ部門
茨城県

### 取手市立取手西小学校

## 共創!ワクワクの「脱炭素チャレンジ広場」2024

脱炭素チャレンジ広場には、給食残渣肥料の有効性を検証するための畑やカーボンオフセットのために植樹をした樹木があります。脱炭素チャレンジ広場を利用して、自分たちのより良い未来のために何かできることはないか児童主体で議論し、実践しています。また、大学教授、大学生、企業、行政などとも協働して、より良い活動にして、未来に向けた取手西小学校のSDGsの象徴にしていきたいと思います。

副賞 記念品贈呈

**審査コメント**

私共は、「木を植える人を育てる」との理念のもと、多様な世代の環境人材の育成に取り組んでいます。本取組は生徒の皆さんが主体となり、自分たちの目線で多様な課題に対して、自分事化し、企業、大学、行政を巻き込んで取り組んでいる点が素晴らしいと思います。ぜひこれからも、取り組みを拡大、進化・深化していくことを期待しています。

公益財団法人SOMPO環境財団　事務局長　鈴木 順子

**受賞者コメント**

本校の子どもたちの取組は今年度も大学や企業、行政のサポート体制をいただきました。どの協力団体も子どもたちの発想、アイデア、思いを実現するために協力していただいて、この栄誉ある賞につながったと思います。私たちにでも未来、地球を変えられるという思いをこれからも継続させていきたいと思います。

プレゼン動画はコチラ

WasteBox
## ウェイストボックス 最優秀$CO_2$の見える化賞

ジュニア・キッズ部門
東京都

### 杉並区立西田小学校

## 食品ロス削減と脱炭素社会実現のためのミミズコンポスト

学校給食の残飯、職員室からでた生ごみ等をミミズコンポストに入れると、ミミズ、微生物の働きにより土ができます。この時、普段はごみとして燃やされるものが土になるため、$CO_2$排出量を削減することができます。さらに、生ごみは濡れているものも多くあるため、通常のごみに比べ、多くの$CO_2$を削減することが出来ます。また、できた土によって植物を増やすことにより、少量ではありますが$CO_2$を削減することができます。

副賞 木製の記念楯の贈呈及びHP掲載

**審査コメント**

私たちの企業理念は資源循環です。これからは循環型の社会だと考え会社を設立しました。皆さんの取組は小さいことかもしれませんが、継続することで社会は変わっていきます。そして、資源循環の延長に脱炭素社会があると信じていますので、これからも継続して頑張っていただければと思います。

株式会社ウェイストボックス　代表取締役　鈴木 修一郎

**受賞者コメント**

3年生のときにミミズのプロジェクトを始めて、自分たちで行動して4年間続けてきたところを評価していただいてすごく嬉しいです。子どもたちも身近なところからできる脱炭素を実現してくれたと思います。この活動が日本中、世界中に広まって、みんなでたくさんの二酸化炭素を削減できたらいいなと思っています。

プレゼン動画はコチラ

alterna 「恋」のソーシャル・ビジネス・マガジン!

## オルタナ 最優秀ストーリー賞

企業・自治体部門 秋田県

### 株式会社　伊徳

## 脱炭素を目指す最新・再エネスーパーマーケット

新規4店舗に地下水熱を利用した融雪や冷暖房、調湿換気空調、冷熱設備等を導入している。その内追分店では融雪、冷暖房、冷凍・冷蔵設備を導入し、194tの$CO_2$削減を達成した。また、水冷設備とすることで室外機が不要となり排熱や騒音の問題解消した。その他、LED照明の導入、食品トレーやペットボトル等のリサイクルといったあらゆる方法で$CO_2$削減に努めており、地域の脱炭素化を先導している。

副賞　雑誌「オルタナ」への記事掲載と冊子提供

### 審査コメント

化石燃料を使用せずに地下水熱で融雪している点が画期的です。さらに、世界的にサーキュラーエコノミー(循環経済)への移行が目指されている中、各地でスーパーを展開する伊徳は、リサイクルの推進に力を発揮できる存在です。また、お客様の意識や行動を変えていく可能性も秘めています。雪国ならではの脱炭素ストーリーに期待しています。

株式会社オルタナ　オルタナ副編集長　吉田 広子

### 受賞者コメント

今回の受賞については、当社の社員ももちろんですが、普段ご利用いただいているお客様のご協力があってこその受賞だと思っています。今後も脱炭素化に向けていろいろな取組を発信していきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

プレゼン動画はコチラ

Weather Caster Network 気象キャスターネットワーク

## 気象キャスターネットワーク 最優秀市民・学校エコ活動賞

ジュニア・キッズ部門 東京都

### 工学院大学附属中学校自動車部

## エコカーの開発を通し、脱炭素社会に貢献する人材の育成

ガソリンエンジンのレース車両は燃費競技に出場するための車で、燃費を良くすることは脱炭素社会に貢献します。ただ化石燃料にも限界があるので、乾電池で動く電気自動車の開発も3年前から始めました。電気自動車は二酸化炭素を排出しません。さらに太陽光で充電するソーラーカーの開発も行なっています。生徒達は6年間で学んだ技術と知識をさらに大学でも研究を続け、卒業後大手自動車メーカーに就職し脱炭素社会に貢献します。

副賞　気象キャスターによる出前講座の実施

### 審査コメント

エコカーのレースなど数々の素晴らしい実績を積み上げてこられた団体と拝見しました。活動名が人材育成ということですが、社会にもエコカーのすばらしさを発信しているということで、正に皆さんが今後の脱炭素社会の自動車産業を支えていくトップランナーになっていくと本当に期待しています。

NPO法人気象キャスターネットワーク　事務局長　水越 祐一

### 受賞者コメント

自分たちで試行錯誤してやってきたものを評価していただき嬉しいです。チームの仲間や先生方、協力していただいた企業の方々の力もあってここに立てていると思うので本当に嬉しいです。これから後輩が増えてくるのですが、後輩にもつないでいけるような活動を推進していきたいと思います。

プレゼン動画はコチラ



## 審査委員特別賞

企業・自治体部門 福岡県

### みやま市

## ゼロカーボンシティみやま

自治体初の電力会社として設立された「みやまスマートエネルギー㈱(以下、みやまSE)」により、市内メガソーラーや一般家庭の太陽光発電での電力を域内で消費している。また、「バイオマスセンタールフラン」では一般家庭や食品工場などの生ごみを分別回収し、メタン発酵発電をしている。これら取組により、太陽光発電の普及や、再エネ電力プランの選択、発電や焼却ごみの削減などで、市の大幅な脱炭素化につながっている。

副賞　メダル

### 審査コメント

みやまスマートエネルギーというのは以前から話を伺っていて、みやま市はとても本格的な取組を先駆けて行っている地域という認識がありました。市役所もリサイクルを含めて本格的な取組であり、本当の意味で脱炭素に向かっている本格的な地域であると認識を新たにすることができました。

審査委員長　江守 正多

### 受賞者コメント

この取組は市民の皆さまの環境政策へのご協力、それから市内の環境、廃棄物、エネルギー関連の事業者など本当に多くの方々のご協力によって成り立っています。これからゼロカーボンを実現させるためには、まだまだ更なる努力、取組が必要になりますので、引き続きご協力をいただければと思います。

プレゼン動画はコチラ

## 優秀賞

市民部門 奈良県

### 一般社団法人 市民エネルギー生駒

## 市民と行政の連携による脱炭素先行のまちづくり

①公共施設の屋根・法面への全額市民出資による太陽光市民共同発電所の設置(現在発電量5機約400MWh/年)
②生駒市と共に自治体新電力会社(名称:いこま市民パワー)設立(2017)、全国初の市民団体出資の新電力誕生
③①にて発電した電力、別途調達した再エネ電力をいこま市民パワーを経由し生駒市内に供給
④市民への啓発活動を通じ、FIT切れ電気の買取りを支援、地産地消のまちづくりの先頭に立つ

副賞　メダル

### 審査コメント

市民の皆さまと一緒に11年間にわたって活動されてきたこと、目的である地域への還元を着実にされていることがとても高く評価されました。こうした活動が各地に広がっていくことを期待するとともに、地域の中に仲間が増えていくことを期待しています。

審査副委員長　尾山 優子

### 受賞者コメント

私どもは2013年に立ち上げた団体で、それぞれの分野のプロフェッショナルのメンバーがボランティアで参画して続いております。10人で立ち上げた小さな団体ですが、この波を大きなうねりにして、日本を引っ張るような町づくりを市民団体が中心となり行政と一緒になって全力をあげてやっていきたいです。

プレゼン動画はコチラ

## 優秀賞

企業・自治体部門　山形県

### 長井市

### 長井市地域脱炭素プラン ～こどもの「学び」にも“脱炭素”～

市内の全小中学校で地元産100%の再エネ電力使用を皮切りに、こどもの「学び」にも脱炭素の視点を充実させ、2050年ゼロカーボンシティに挑戦しています。
MODEL 1 「地産電力+見える化」を全小中学校に導入!
MODEL 2 「家庭の余剰電力」を中学校へ供給!
MODEL 3 「RE100給食」の提供を目指す!
MODEL 4 「バイオガス発電」で新しい循環&食育!

副賞　メダル

**審査コメント**

各地の自治体で脱炭素の取組が進んでいる中で、学習という形で市民である子どもたちに伝えていくというその活動を着実に進められている点が評価されました。これから給食も脱炭素され地域でのサーキュラーが進んでいくということで、学校自体が脱炭素化、生活を含めて脱炭素化されていることに強く期待しています。

審査副委員長　尾山 優子

**受賞者コメント**

長井市は自然環境との共生、循環を合言葉に様々な環境施策を展開してきました。長井市地域脱炭素プランはこれまでの施策に脱炭素の視点を加え子育てあるいは学校教育の質を少しでも高めていこうという取組で、全国で脱炭素ドミノを起こしていければと思っています。長井の子どもたちが誇れる脱炭素の町づくりを今後とも展開していきたいです。

プレゼン動画はコチラ

## 優秀賞

企業・自治体部門　神奈川県

### 株式会社新江ノ島水族館と“タカツクラフト”協同組合高津工友会

### 餌料の鮮度維持と脱プラスチックな給餌用バケツの共同開発

水族館の給餌用バケツの素材を、飼育動物の健康と環境に配慮したプラスチックからステンレスへ変更した。そのために共同で新たな形状のバケツを開発した。新江ノ島水族館では、年間約80個のプラスチック製給餌用バケツの廃棄削減に繋がった。サーキュラーエコノミーの観点からも、素材をステンレスへ変更することで廃棄をゼロへ近づけ、製造時や循環時のエネルギーを削減、$CO_2$排出の削減へと繋げられると考える。

副賞　メダル

**審査コメント**

水族館の様々な活動の中で、動物の健康にもよく、更に脱炭素のポイントがバケツだったのかなと思うと、まだまだ私たちも工夫する余地があるという示唆をいただきました。脱炭素でもあり生き物にも優しい掛け算の活動が増えていくこと、他の水族館・動物園にも波及しての横の広がりにも期待したいと思います。

審査副委員長　尾山 優子

**受賞者コメント**

この度は素敵な賞をいただきありがとうございます。我々は川崎の工業会のユニットで活動していますが、いろいろな技術は持っている中で世の中の役に立つものとして、今回新江ノ島水族館に提供いただいてやり取りしながら一つの形となってこのように評価されたことを大変嬉しく思っています。

プレゼン動画はコチラ



## マクドナルドオーディエンス賞

副賞　ハンバーガー商品券1年分

**審査方法**

マクドナルドオーディエンス賞は、視聴者のWEB投票によって受賞団体が決定する賞です。YouTubeで公開したプレゼンテーション動画を視聴し、最も感銘を受けた2団体に投票&YouTubeの高評価ボタンで投票できます。総投票数2,680票の結果、上位3団体がマクドナルドオーディエンス賞に決定しました。

ジュニア・キッズ部門　東京都

### 学校法人国本学園 国本小学校

### 「KUNIMOTO Re-Project」 ～ゴミから笑顔を～

プレゼン動画

**受賞者コメント**

いろいろな人の応援があってこの場に立たせてもらっていることを本当に実感します。子どもたちが活動をしましたが、企業、地域の皆さま、応援してくれる周りの方に感謝をしたいと思います。

学生部門　熊本県

### 熊本県立南稜高等学校 総合農業科環境コース林業専攻

### 「がんばっとるばい!人吉球磨」 森林資源活用で脱炭素×災害復興

プレゼン動画

**受賞者コメント**

私たちの活動の発表は熱意と元気を一番大事にしています。みんなに知ってもらうことが大切なので、オーディエンス賞に選ばれたことを大変嬉しく思います。

企業・自治体部門　神奈川県

### 株式会社新江ノ島水族館と“タカツクラフト”協同組合高津工友会

### 餌料の鮮度維持と脱プラスチックな給餌用バケツの共同開発

プレゼン動画

**受賞者コメント**

私たちは目の前の生き物のために何ができるかを日々考えながら活動しています。その一つの取組がこのような形で賞をいただけるなんて夢にも思わなかったので、大変嬉しく思います。